

## 5 研究発表① ～ 北海道美唄尚栄高等学校 教諭 山本 雄介 先生

《テーマ 学びに向かう力・人間性等の育成に向けた保健体育の授業づくり》

本校は、新年度完全二間口になる総合学科校である。文科省の研究指定校の話があり、本校でできるか不安であったが、新学習指導要領で育成を目指す資質・能力の三つの柱の中で特に「学びに向かう力・人間性等」にフォーカスを当てて研究指定校の取組をスタートさせた。特に本校はコミュニケーションが得意でない生徒が多く、運動の二極化も課題であったことから、「授業、行事、生活等に主体的に取り組もうとする生徒及び社会生活における望ましい態度や行動を取ろうとする生徒」を保健体育科の授業を通して養うことを目標に進めてきた。研究1年目の取り組みとしては、研究体制の構築と3年間を見通した指導と評価の系統化で「教科内研修」を充実させた。そのことで体育科の教員が同じ方向を向いて授業に向かうことができた。また、学習カードの作成と活用によって互いの評価や3年間を見通した変容を知ることができ、人間性等の態度の育成を図ることができた。

次に、各単元におけるクライマックスイベントを設定したことで、自己やグループの目標が明確になり、練習に対して意欲的に取り組んだり、仲間と協力したりする場面が多く見られた。体育理論では最後の授業でポスターセッションを実施し、笑いが起きるなどグループの雰囲気は格段に良くなった。実技では陸上競技を主体に具体的実践をおこなった。工夫前とその後ではアンケートを見てもわかる通り、主体的に取り組もうとする態度や、公正の態度が身に付いたことや責任や共生といったこれからの社会に必要な力を育むことができた。この事業をおこなったことで生徒の成長と我々教員の成長も知る良い機会となった。



### 【質問】

- ・学習カード等読めない生徒にはその場面や時間で書かせているのか？（留寿都 目黒先生）

山本先生 ～ 運動量を確保したいこともあり、書かせる時間を大幅にはとれないが、基本は授業の終わり。状況によっては教員がサポートに入る。

### 【助言】（北海道教育庁学校教育局健康・体育課 学校保健・体育グループ主査 内海 久）

良い点として、「ねらいを明確にした指導計画」「学習カードの工夫」があげられる。人間性等を育成するための場面設定ができています。また、学習カードでは相互評価の活用により評価の妥当性等も図られている点は今後も続けていってもらいたい。アレンジした方がよいこととしては、クライマックスイベントなどは他領域等でも実施することが考えられる。また、育成に適した領域での実践やカリキュラムマネジメントによる効果的な指導など、育成した資質・能力の行事等における活用もできれば良いと考える。

## 6 研究発表② ～ 北海道新得高等学校 教諭 吉田 佑輔 先生

## 《テーマ 十勝思春期保健地域教育プログラム事業を活用した授業について》

思春期世代の性教育をテーマに「十勝思春期保健事業」をおこなっていたが中々成果が出なかった。そこで「地域保健教育プログラム事業」を重ねることで今の事業が始まった。はじめにおこなったのが、十勝管内における「性教育」の標準的プログラムの作成・実施である。十勝の子どもたちに、教育・保健・医療が連携し、地域が一体となって思春期における「生きる力」を身につけてもらうことが目的であった。その背景としては、十勝管内においては10代の性感染症の罹患率が高いことや予期せぬ妊娠、中期中絶割合が高いことなどが課題であった。特に全国・全道と比較して高い状況が続いている。この課題を解決するためには「十勝で育つ」ことに関わる大人が現状を認識し、課題を共有し方向性を定め活動する必要があることや生徒への性教育に関わる標準プログラムを作成し、管内で実施することが必要であった（十勝管内5校で実施）

地域の医療従事者等からDVDでのメッセージ等をもらい生徒へ注意喚起を呼びかけたり、知識を高めること等を目的に実施した。授業の最後のまとめとして「私たちにできることは何だろう」というテーマでグループワークをしたところ、別紙のアンケート等を見てわかるとおり成果が表れた。



### 【質問】

・データのところで従来の子どもたちが全国と比較して高いのか？それは十勝に限ってのことなのか全道的な傾向なのかかわかっていれば教えてもらいたい。（幕別高校 吉田校長）

吉田先生 ～ よくわからない。とにかく十勝は非常にまずい状況にある。

### 【助言】（北海道教育庁学校教育局健康・体育課 学校保健・体育グループ主査 内海 久）

良い点として、「地域の課題を踏まえた教材」の活用と「社会に開かれた教育課程」があげられる。特に地域に何を求めているのか？という部分を明確にしているところが良い。改善すべき点としては、エイズにもう一步踏み込んで指導したら良いと感じた。また、思考力・判断力・表現力等に特化した学習活動例があればもっと良かった。また、学習計画の位置づけとして他教科等との共有もあればなお良かったと思う。

## 7 研究協議 ～ ワールドカフェ

- (1) 自己紹介
- (2) 司会・記録者の決定
- (3) テーマ「主体的・対話的で深い学び」に向けて保健体育に求められること
  - ①自校の取り組み 課題など
  - ②課題の解決 意見交換 席移動等
  - ③まとめ



## 8 道教委インフォメーション

(北海道教育庁学校教育局健康・体育課 学校保健・体育グループ主査 内海 久)

新学習指導要領を踏まえた教育課程編成・実施、体罰の防止及び体育活動中の事故防止について、資料をもとに道教委インフォメーションが行われた。特に、2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、体育理論等においてオリンピック・パラリンピック教育の充実について説明があった。

## 9 閉会 ～ 北海道札幌東豊等学校長 林 満 章

保健体育部会の閉会に当たっての謝辞。ある朝の家庭の様子を例に挙げ、人間は「人を思いやる気遣いが大切」ということを話した。教育現場においても、最も大切なことであり、佐藤教授の講演や実践発表等を通じて、今回学んだことを各校に持ち帰り、生徒のためにできることを実践していただきたい。